
あなたは何者？

くまっ！

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたは何者？

【Nコード】

N7112H

【作者名】

くまっ！

【あらすじ】

僕は梨華と名乗る少女とであった。彼女が語る僕と言う存在は・・・。

それとはある夏の昼下がり、僕は何時もの様に時間を持て余し散歩に出掛ける。

熱い夏の日差しを身体中に目一杯浴びる。

周りが眩しすぎて暗く感じる。

道の先から少女が一人歩いてくる。

10才前後だろうか、白いワンピースを着た髪の長い女の子。
見慣れない顔だ、どこの子だろうか？

「こんにちは」

不意に女の子が声を掛けてきた。

「こ、こんにちは――」

動揺してしまった、情けない・・・。

「おにいちゃんは、何者？」

何者と言われても困る。

僕は僕以外の何者でも無いんだから。

「私は、梨華。おにいちゃんは、自分が何者か判らないの？」

「僕は僕に決まってるだろ？真也って名前もあるんだけど・・・――」

「そんなことは聞いてないわ」

梨華と名乗った少女は、的外れな答えだと思ったのか、不機嫌な顔つきで答える。

「私が聞いているのは、おにちゃんみたいな存在がなんでここに居るのかってこと」

・意味がわからない。

「おにちゃんは自分が何者か判らないの？どんな存在になっていくかも・・・」
この子は何をいっているんだ？

「もぉー、私の言ってる事聞してる？」

真っ赤な顔をしながら、梨華が話しかけてくる。
別に無視をしていた訳じゃないんだけどなぁ・・・

―聞いていたけど、よく意味がわからないなぁ・・・梨華ちゃんの言い方だと、僕が人間じゃ無いものみたいな感じじゃないか―

「良かった、ちゃんと聞こえてたみたいね。

ねえ、おにちゃん。良く聞いてね。おにちゃんはもう存在しないものなの」

―はぁ？―

思わず口に出してしまった。

昼の日差しを全身で受ける感覚。

肌を駆け抜けていく風の心地よさ。

何より、目の前の人間と会話をする事。どれも、ここに存在しないと出来ないことだ。

「まだ、理解してないようね」

梨華はそう呟くと静かに言葉をつないだ。

「おにいちゃんが今感じている感覚は、全て偽りのものなの。こうして会話をしている私の目の前に居るおにいちゃんは本当のおにいちゃんじゃないの・・・。」

おにいちゃんは、自分がここに居ると思っているようだけど、実はそうじゃないのよ」

―訳が判らない―

「そうよね。判らないからここに居るのよね。おにいちゃんは3日前にここで事故にあったのよ」

―まさか―

「本当よ」

冷たく良い放ち梨華はスツと指をさす。
指をさされた方に視線を向る。

―まさか―

道端には花束とお線香が供えてある。

「私にはおにいちゃんが透き通って見えるわ」

そんなハズはない、僕には僕の体が普通に見える。

「かわいそうね」

梨華はそう呟くと、僕の手を握ってくる。

「もう迷っちゃだめよ？」

目の前が一気に暗くなる。

そして、音も消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7112h/>

あなたは何者？

2010年11月19日08時28分発行